

8
vol.246

広報 縄文村だより vol.246(8月号)

Jomon Times



令和8年8月1日
●編集・発行●
奥松島縄文村歴史資料館
東松島市宮戸字里81-18
TEL 88-3927 FAX 88-3928



縄文の塩づくり① ～製塩土器づくり～

6月21日(日)、毎年恒例の大人気イベント『縄文の塩づくり』第1回目の製塩土器づくりを実施し、32名の参加者さんが集まりました。今年は土器づくり初体験の方も多かったのですが、どのような作品が出来上がったのでしょうか…。一方、縄文式の塩の味に魅せられたリピーターさんからは並々ならぬ塩づくりへの意気込みが感じられました。



限られた場所でしか作られなかった縄文の塩

最初に学芸員から縄文時代の塩づくりについて説明。典型的な縄文土器には文様がありますが、製塩土器には文様がなく、薄く作られているのが特徴です。

塩づくりは縄文時代の終わり頃の4つの地域(青森県・松島湾・福島県浜通り・霞ヶ浦周辺)でしか行われていなかったと考えられています。松島湾沿岸では数多くの製塩遺跡が見つかり、つくられた塩は宮城の内陸地や遠く山形にまで運ばれました。



製塩土器



縄文土器



難しいけど、塩のために土器を量産!

講座終了後はさっそく製塩土器づくり。まずは底をつくったら、粘土ひもを重ねて土器を形づくり。これが意外と難しく、高さを出したくても積み上げるうちに口が開いてしまったり、思った以上に厚くなってしまったり。簡素な見た目とは裏腹に縄文人の超絶技術が詰まっているんです!ただ、縄文人には及ばなくてもとにかく数をつくるのが一番のコツ(笑)。1つめの土器には苦労した方が多かった印象ですが、徐々にコツをつかんだようで2つ、3つと順調に量産していました。本番の塩づくりでどれだけ塩がとれるか期待ですね!



▲塩のために家族総出で次々と製塩土器を量産中。

おいでよ、縄文村へ!
8/8(土)～11(火)

受付時間:9:30-14:30
(※8/11は10:00-14:30)

日替わりメニュー

毎日できる縄文体験!

勾玉づくり



¥400

火おこし



¥150

シカ角ストラップ



¥400

8/8



¥150

木簡にセタのお願いを書こう!

8/9



¥150

Kawaii ミニ土偶・土版

8/10



¥300

貝のふしスリット

8/11

入館&体験
無料Day



虫じゃないよ
カラムシ
ストラップ

こんな使い方も
できちゃう!

こちらも
見てね!→



シリーズ
第63回

東松島の教育を語る



第7回東松島市「子ども未来サミット」
～もっと広げよう でめこんの輪～

■問 教育総務課教育指導係 ☎内線1253

本市教育委員会では、「ふるさと東松島市を愛し、新たな時代を志高く拓く、心豊かな人づくり」を教育基本方針に掲げ、教育行政に取り組んでいます。その象徴ともいえる取組の一つが、市内全11の小中学校の代表が集う東松島市「子ども未来サミット」と、デジタルメディアとの付き合い方を考える活動、デジタルメディア・コントロール チャレンジ「東松島ゴール」(略称:でめこん)です。

「子ども未来サミット」は、令和2年から始まった取組です。スマートフォンやSNSの急速な普及に伴い、「大人から一方的にルールを押し付けるのではなく、子どもたち自身が当事者として向き合い、主体的に解決策を見つけ出していこう」という思いからスタートしました。

サミットにおける子どもたちの熱心な議論から、令和3年には東松島市「子ども宣言2021」が誕生し、さらに令和4年には、生活習慣を整えるための具体的な行動目標として「でめこん」を決めました。

子どもたち自身が平日の使用時間や就寝時刻の目安を決め、利用時間をコントロールする。それによって生まれたゆとりの時間を、読書や家族との会話、豊かな自然や人と触れ合う時間へとつなげ、健康的な生活を送ることを目指しています。

第7回サミットは、7月4日(土)に開催されました。第1部では、未来学区の代表児童・生徒が「令和版心あったかイトころ運動」の実践発表を行い、小・中学校が連携した「あいさつ・清掃・ゴミ拾い」の心を育む3つの取組について紹介しました。

第2部のグループ・ディスカッションでは、児童・生徒だけでなく、保護者や学校運

営協議会の代表者などの地域の大人も参加し、「でめこん」の充実に向けて、それぞれの立場で話し合いました。デジタルメディアとの付き合い方について、「子どもだけでなく、家庭や地域ができること、やるべきことは何か」をテーマに、真剣な意見が交わされました。

続く第3部の全体会では、各学区の子どもと大人の代表者が「親子や地域で取り組む新たな宣言」を発表しました。第一学区からは、ファミリー(家族)でメディアコントロールに取り組む「ファミコン」の取組、第二学区からは、親子や地域でやるべきことを当たり前にする「親子で!地域で!やることやろうキャンペーン」(仮)の取組、未来学区からは、親子で一緒に楽しい時間を共有し、時間をそろえてみんなでデジタルメディアを手放す取組をそれぞれ発表しました。

今後、今回の宣言を基に、各学区が親子で、地域で取組を進めていきます。「でめこん」の取組を、学校だけにとどまらず、家庭や地域の人々で支え合う、温かい輪へと広げ、学校、家庭、地域が一体となって子どもたちの明るい未来を支えていきましょう。



第2部グループ・ディスカッション



第3部親子で宣言